

## 序 文

千葉大学図書館亥鼻分館が所蔵する貴重な古医学書の平易な解説の付いた目録が刊行される運びとなり、少々の関わりを持ったものとして喜びに堪えない。このコレクションの起源は、別項で詳しく述べられるように千葉医科大学の伊東弥恵治眼科教授の大正末期に始まるご努力にある。さらに、千葉県茂原の「永吉の眼科病院」6代院長千葉弥次馬（江風）氏の決断力あるご助力があった。さらに大戦後に佐倉順天堂より貴重な洋書を含む多くの古医書、その他がコレクションに加わった。

昭和50年代に、これら古医書は図書館に移されたが、この時期に医学部東洋医学研究会の石津谷義昭氏（当時学生）らの有志が館員の協力下に目録化を図り、このコレクションの存在と保存法への関心を一般に訴えた。

すべての古医書が分館に帰った後、先への整理は進まぬまま平成5年に至った。当時、分館長の職にあった私は、今後の方針を医学史に造詣ある石出猛史博士（当時、第三内科）に相談し、恰好な方としてご紹介を受けたのが樋口誠太郎先生であった。当時、先生は県立中央図書館歴史科長の任にあり、日本医学史学会評議員を務められていた。先生は古い文書をさらりと読まれる。この出会いが古書コレクションにとっていかに幸運であったかは計り知れない。さらに整理を進め、解説付き目録を作成することになった。中央博物館の沼田真館長（故人、千葉大学名誉教授、元図書館長）は、先生がこの仕事に就くことを強く推された。それが、樋口先生のほぼ週に1日、休暇の日、足掛け15年に及ぶ作業の発端であり、その成果がここに刊行されたのである。この間、平成8年に新設された亥鼻分館の専用保存室に古書は移され安住の地を得た。なお、解説の一部を載せた目録中間版が平成12年に刊行され、記念展示と講演会が開かれている。

本コレクションは蔵書数では、京都大学の富士川本に一位を譲るが、解説付き目録が備わったものとしては他に比肩するものがない。また、将来にわたって、全国的にもこのような事業が二度と行われる可能性はまずないであろう。このコレクションには歴史的に貴重な書物も多く含まれるが、珍しいものよりは当時の医学者がどのような知識を持ち、またどのように勉強したかを今に伝えるものが中心である。いふならば、先人達が歩んだ道程の記録であり、我々自身の記録とも言えよう。本来、歴史は人にとって究極の教師である。次の仕事はこのコレクションの主要なものを映像化し、多くの人の利用に供することであろう。さらなる努力を次に期待したい。

このコレクションの収集と維持および広報、また、本目録の作成には上述以外に多くの方々関わっていただける。中でも、歴代の千葉大学図書館長、亥鼻分館長を始め館員の支持と協力を敬意を表したい。この刊行の費用の多くを「ゐのはな同窓会」に助けていただいた。深甚なる謝意を表するものである。

平成19年3月

橋 正道

（千葉大学名誉教授、元亥鼻分館長）